

**ホテルアマービシ別館 聚幸菴**

鐵造とユキが祝言をあげる旅館

明治37年開業の旅館の別館として建築された木造2階建ての建物。広さは延べ約500平方メートル、能舞台を備えた大広間があり、海軍関係者が多く利用した。過去には東郷平八郎や乃木希典、秋山真之などの著名な軍人が同館を訪れたといわれている。



**田井漁港**

鐵造が「船を出せー!」と叫び、油を搭載した伝馬船を漕ぎ出す門司港の漁村

本作は、「海」が重要な舞台の一つ。古くからの船小屋が並ぶ浜辺の景観が残された大浦半島の田井漁港では、その景観を活かして、鐵造が最初の事業開拓のために伝馬船を漕ぎ出す象徴的なシーンが撮影された。



**「海賊とよばれた男」市内ロケ地はここ!**  
本市4か所で行われたロケの様子と登場シーンを解説

**舞鶴赤れんがパーク**

若かりし鐵造が、油のセールスに訪れた筑豊炭鉱の内観

明治初期から大正期にかけて建築された赤れんが倉庫群。その中でも普段一般公開されていない倉庫内部が今回のロケに使用された。これら赤れんが倉庫群は全部で12棟からなり、そのうち8棟が国の重要文化財で、多くの映画やドラマのロケ地に使用されている。



旧舞鶴鎮守府軍需部倉庫内

**日本板硝子社宅**

GHQのダニエル・ミラーが、横浜の旧海軍備蓄タンクから残油を取り出す店員たちを見つめる場所

大波下にある日本板硝子株式会社舞鶴事業所の社員宿舎。木造平屋建ての長屋が軒を連ねており、木扉と未舗装の道が残る景観は、今なお昭和の雰囲気を感じ出している。



映画「海賊とよばれた男」の撮影が舞鶴で

海賊とよばれた男

ホテルアマービシ別館 聚幸菴で行われた撮影の様子。撮影された映像はその場で山崎貴監督がモニターチェックする。

映画『海賊とよばれた男』



©2016「海賊とよばれた男」製作委員会 ©百田尚樹 / 講談社

- STORY -  
主要燃料が石炭だった当時から、石油の将来性を予見していた若き日の国岡鐵造は、北九州・門司で石油業に乗り出す。国内の販売業者や欧米の石油会社（石油メジャー）など、様々な壁が立ちふさがる。それでもあきらめない鐵造は、型破りな発想と行動で自らの進む道を切り開いていく。やがて石油メジャーに敵視された鐵造は、石油輸入ルートを封じられてしまうが、唯一保有する巨大タンカー「日承丸」を秘密裏にイランに派遣するという大胆な行動に出る。それは当時のイランを牛耳るイギリスを敵に回す行為だったが一。

12月10日から映画「海賊とよばれた男」が全国で上映されています。その撮影が岡田准一さんや染谷将太さん、鈴木亮平さんら豪華俳優を迎えて舞鶴市で行われました。撮影は市内4か所で行われ、戦前・戦後の日本の漁村や炭鉱、海軍施設などのシーンに使用されました。  
本市には、昨年4月に認定された日本遺産を構成する旧海軍関連施設など「ここにしかない」ロケーションがたくさんあるだけではなく、田井漁港のような農山漁村も多く残っており、今回の撮影は、まさに舞鶴の魅力を最大限に活かしたロケとなりました。

舞鶴フィルムコミッションは、本市の持つロケーションを活かした撮影の誘致・支援を通じた地域の魅力発信を行っており、本作の他にも、「男たちの大和」「妻と飛んだ特攻兵」などさまざまな映画やドラマの撮影を誘致。昨年には映画「日本のいちばん長い日」の撮影誘致や支援の取り組みが評価され、全国のフィルムコミッションが加盟するジャパンフィルムコミッション（JFC）の「JFCアワード優秀賞」を受賞しました。今後も各ロケ作品を通じた観光PRや地域の活性化に取り組んでいきます。

映画の公開に合わせて企画展を開催

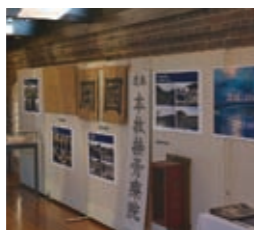
映画の公開にあわせて、実際に撮影で使用されたセットや台本などの企画展を開催しています。

【期間】1月31日(火)まで、9時～17時（1月1日(祝)は休み）

【場所】赤れんが2号棟

【内容】ロケや映画に関するパネルや撮影で使われたロケセットの展示など

【問い合わせ先】舞鶴フィルムコミッション（観光商業課内、☎66・1024）



『海賊とよばれた男』ロケ地マップを作成

本市を始め、綾部市や小浜市など近隣5市町のロケ地をまとめたロケ地マップを作成（A3判二つ折り、25,000部）。各市町の観光施設や市内で同映画を放映している八千代館などで配布しています。映画を見た後は、ぜひロケ地マップを片手に「聖地巡礼」を試みてください（ロケ地によっては、観覧に特別な許可が必要な場合があります）。

【問い合わせ先】観光商業課（☎66・1024）

